

名古屋地学会第 291 回例会報告

松岡敬二

日時：2011 年 11 月 13 日（日） 参加者 8 名

場所：鳳来寺山周辺

案内者：松岡敬二（豊橋市自然史博物館館長）

第 291 回例会は、横山良哲さんを偲ぶ巡検として開催しました。横山さんは、東三河を走り回り、地形・地質・鉱物岩石などに関する多くの著書を残されました。特に、鳳来寺山周辺の地学事象は多く取り上げられています。今回は鳳来寺山周辺に見られる鳳来湖岩脈群と地元の地名の付いた鉱物採集にしました。上臈岩：鳳来湖に映る上臈岩は大変美しかった。凝灰岩の白と湖面のコントラストは四季により変化します。

障子岩岩脈（鳳来湖岩脈第 6 岩脈）は、横山さんがしばしば写真で紹介され、鳳来湖岩脈群では最大規模。山の斜面を登って、やっとたどり着けました。現地へは、以前名古屋大学教授であった諏訪兼位先生を横山さんが案内され、国の天然記念物に匹敵する規模と称賛されたものです。現在、新城市天然記念物です。沢を下りて、穴滝岩脈へ回ったのですが、湖水の量が多く、全様が見えなかった。湯谷へ移動し、昼食後に、馬の背岩岩脈（国の天然記念物）を見学しました。馬の背岩の上に生えていた植物が流されており、以前よりは全体が見やすくなっていました。



上臈岩



障子岩岩脈



正面から見た馬の背岩脈



斜め上部から見下ろした馬の背岩脈



中宇利鉱山



アルチャーニ石

中宇利鉱山では、ズリにある鉱物は採集者による乱獲で、中宇利石すらほとんど見つからなかった。しかし、幸運な会員はアルチャーニ石、クジャク石など採集ができました。中宇利鉱山産の中宇利石は、名古屋地学会会員であった鈴木重人先生が命名された鉱物です。